



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会通信 (No. 94) uniwish21号 (2016年7月)
佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号
(電話・FAX) 0952-28-2077
(業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00
E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>
FBページ <http://www.facebook.com/unicef.saga>



長谷部誠 選手 熊本地震の被災地を訪問 「子どもたちが少しでも元気になれるように」

【2016年6月9日 熊本発】

ドイツ・プロサッカーリーグで活躍する長谷部誠選手が、6月9日（木）、熊本地震の被災地、熊本県を訪問しました。

思い入れのある熊本

最初に訪れたのは御船町立御船中学校。この中学校には現在、同じ町内で校舎が被災した滝尾小学校の児童たちも通っています。体育館に集まった御船中学校の生徒と、滝尾小学校の児童の前に、長谷部選手が登場すると、子どもたちは声をあげて歓迎しました。

子どもたちの前でマイクを持った長谷部選手は、「熊本は非常に思い入れのある場所です」と、高校3年生の時に熊本で開催されたインターハイに出場し準優勝できたことが、プロのチームから誘いを受けるきっかけになったことを話しました。

そして、子どもたちが少しでも元気になれるように、と一緒にサッカーをして汗を流した長谷部選手。子どもたちを見守る先生たちも、子どもたちが震災の後、一番の笑顔を見せている、と嬉しそうに話しました。御船町は、甚大な被害が伝えられている益城町の隣の町ですが、これまでに有名人がこの町を訪れることはなかったと言います。

「一生分の元気をもらった」

続いて長谷部選手は、熊本市立健軍小学校のグラウンドに登場しました。「少しでもみんなと一緒に楽しい時間を過ごせたらと思います」と話し、子どもたちを相手に“真剣に”サッカーの試合に臨み、子どもたちにとって夢のひと時となりました。



◎日本ユニセフ協会/2016/tatsuo.hirose
熊本市立健軍小学校の子どもたちとハイタッチする長谷部選手。

子どもたちは声をあげて歓迎しました。

3校目の熊本市立湖東中学校を訪れた長谷部選手は、自身が生活するドイツでも熊本の地震の様子が報じられており、友人から「故郷は大丈夫か？」と聞かれたことを話しました。そして30度を超える暑さの中、ここでも生徒たちと一緒にボールを追いかけ、汗を流しました。長谷部選手とハイタッチした生徒の中には、「もうこの手あらわん～」と興奮気味に話す子もいました。

最後に生徒代表の女の子が「一生分の元気をもらいました。今日は本当にありがとうございました！」と笑顔で述べ、長谷部選手も笑顔で握手を交わしました。

◎日本ユニセフ協会/2016/tatsuo.hirose
子どもたちと一緒に汗を流してサッカーをする長谷部選手。



◎日本ユニセフ協会/2016/tatsuo.hirose
御船町立御船中学校を訪問した長谷部選手と笑顔あふれる子どもたち。



◎日本ユニセフ協会/2016/tatsuo.hirose
「一生分の元気をもらいました！」と笑顔でお礼を述べる熊本市立湖東中学校の生徒。

今、出来ることをする

長谷部選手は、熊本訪問の前日に「あさひ幼稚園」（宮城県南三陸町）を訪問した際、熊本地震について「何か自分にできることがあると思うし、行動を起こすことが大事だと思います」と語っていました。「日常」を奪われた子どもたちにとって、スポーツや遊びなどで体を動かし、笑顔になれるひとは、心のケアにもつながるとも大切な時間です。「被災した子どもたちが少しでも元気になれば」という長谷部選手の想いは、確かに熊本の子どもたちに届いたようです。長谷部選手と触れ合う熊本の子どもたち一人一人の表情はきらきらと輝いており、そして、子どもたちを周りで見守っていた人々にも、とびきりの笑顔が広がっていました。



熊本へユニセフ学校用テント10張を寄贈 熊本第二高校で引き渡し式 授業などで活用

【2016年5月18日 東京・熊本発】

世界中のユニセフの緊急支援の現場で、学校再開支援のための仮設教室などとして使われている大型テント10張が、5月18日（水）、熊本県立熊本第二高等学校に到着しました。

熊本県内では、四半世紀にわたりユニセフの広報・募金活動に取り組む熊本県ユニセフ協会が、長年にわたって築いてきた地域のネットワークを駆使し、地震発生直後から、様々な支援団体と支援を必要とする“現場”や行政と繋ぐとともに、幼稚園や保育園などへ全国から寄せられた玩具などを届けています。今回のテント寄贈も、こうした活動の中で、県の教育委員会から熊本県ユニセフ協会に寄せられた支援要請を受けて実現したものです。

この大型テントは、ユニセフが、シリア周辺国の難民キャンプや、自然災害の被災地など世界中の緊急支援の現場で、主に学校再開支援に使用しているものです。床面積は72㎡で、教室として使用した場合、約40人が収容できる大きさです。地震の影響で体育館や渡り廊下も使えなくなった熊本第二高校では、30ある教室のうち現在使用できるのは20教室のみ。このため、今回到着したテント10張のうち5張が同校で使用され、残り5張のテントも、同じような状況に置かれている熊本県内の学校に順次提供される予定です。



◎日本ユニセフ協会/2016
「ここにあるテントが、世界の子どもたちを助けてくれていると思うと、決して他人事ではないなと、改めて感じました」と語る宮尾千加子教育長

熊本への支援

日本ユニセフ協会や全国の協定地域組織も、東日本大震災被災地支援の中で培った知識、経験、活動ツールを最大限に活用して熊本県ユニセフ協会の取り組みを応援していました。

中でも、被災後の子どもたちへの「心のケア」の必要性が高まっていたことから、冊子『子どもにやさしい空間ガイドブック』や『遊びを通した子どものこころの安心サポート』や、ユニセフのレクリエーション・キット、おもちゃなどを、熊本県ユニセフ協会に提供。被災地域の保育園や幼稚園などに届けていたところ、熊本県教育委員会より「学校用テント」の支援要請があったことから、日本ユニセフ協会より同テント10張を寄贈する運びとなりました。

【資料提供：日本ユニセフ協会】

2000年9月、国連ミレニアム・サミットに参加した189の国によって採択された「国連ミレニアム宣言」。これをもとに2015年までに達成すべき国際社会共通の目標としてまとめられたのがミレニアム開発目標 (MDGs) です。ミレニアム開発目標 (MDGs) に向けた国際社会の15年間の取り組みの結果、世界全体で多くの成果がみられました。MDGsの各目標ごとに、その成果を見てみましょう。

(★は各目標の主なターゲット。いずれも1990年代と比較して2015年までに達成すべきとして)

残された課題は紙面の都合で割愛させていただきます



1 極度の貧困と飢餓の撲滅

- ★ 1日1.25米ドル未満で生活する人口の割合を半減させる。
- ★ 飢餓に苦しむ人口の割合を半減させる。

- ・極度の貧困(1日1.25米ドル未満で生活)で暮らす人の数は、19億人(1990年)から8億3,600万人(2015年)と、半数以下に減少
- ・途上国や地域における栄養不良の人々の割合は23.3%(1990-92年)から12.9%(2014-16年)と、ほぼ半減の見込み
- ・5歳未満児のうち低体重の子どもの割合は、1990年から2015年の間にほぼ半減



2 普遍的初等教育の達成

- ★ すべての子どもたちが、男女の区別なく初等教育の全課程を修了できるようにする。

- ・途上国の初等教育純就学率は80%(1990年)から91%(2015年)に増加
- ・学校に通っていない初等教育学齢期の子ども数は、1億人(2000年)から5,700万人(2015年)に減少
- ・若者(15~24歳)の識字率は、83%(1990年)から91%(2015年)に向上



3 ジェンダーの平等の推進と女性の地位向上

- ★ すべての教育レベルにおける男女格差を解消する。

- ・途上国の3分の2以上で、初等教育の就学率において男女の格差が解消



4 乳幼児死亡率の削減

- ★ 5歳未満児の死亡率を3分の2減少させる。

- ・5歳未満児年間死亡数は1,270万人(1990年)から590万人(2015年)と、53%減少



5 妊産婦の健康の改善

- ★ 妊産婦の死亡率を4分の3減少させる。

- ・妊産婦死亡は、10万人あたり380人(1990年)から210人(2013年)に減少(死亡率は45%減少)
- ・熟練した医療従事者の立会いの下での出産は、59%(1990年)から71%(2014年)に増加



6 HIV/エイズ、マラリアその他の疾病の蔓延防止

- ★ HIV/エイズの蔓延を阻止し、その後減少させる。
- ★ マラリアおよびその他の主要な疾病の発生を阻止し、その後発生率を下げる。

- ・HIVの新たな感染は、推定350万人(2000年)から210万人(2013年)と、約40%減少
- ・2000年~2015年の間に推定620万人以上の命がマラリアから、2000~2013年の間に推定3,700万人の命が結核から守られた。



7 環境の持続可能性の確保

- ★ 安全な飲料水と衛生設備を継続的に利用できない人々の割合を半減する。

- ・改善された水源から安全な飲料水を入手できる人の割合は、76%(1990年)から91%(2015年)に向上。1990年以降、26億人が新たに利用できるようになった。
- ・2015年、世界の人口の68%が改善された衛生設備を利用している。1990年以降、21億人が新たに利用できるようになった。



8 開発のためのグローバル・パートナーシップの推進

- ★ 民間部門と協力し、特に情報・通信分野の新技术による利益が得られるようにする。

- ・インターネットの普及率は、世界の人口のわずか6%余(2000年)から43%(2015年)まで増加。新たに32億人がインターネットの情報網につながる事ができた。
- ・2015年、世界の人口の95%が、携帯電話の通話可能域で暮らしている。



- 2月11日 (木) イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」参加 (イオン佐賀大和店)
- 2月24日 (水) ユニセフ出前授業 長崎県長与町立長与中学校 (1年～3年)
全校道徳「ユニセフの活動を知り、世界と日本の平和を築くためにできることを考えよう」
- 2月25日 (木) ユニセフ募金贈呈 上峰町立上峰小学校
- 2月28日 (日) 「レッドトルネード」ユニセフ募金活動
第40回日本ハンドボールリーグ佐賀大会会場
(佐賀総合体育館)
- 3月1日 (火) ユニセフ募金贈呈 福岡県三潴郡大木町立大溝小学校
- 3月11日 (金) J A佐賀県女性組織協議会「愛の募金」贈呈
(佐賀市 JAさが会館)
- 3月12日 (土) 「レッドトルネード」ユニセフ募金活動
第40回日本ハンドボールリーグ佐賀大会会場
(神埼中央公園体育館)
- 3月18日 (金) ユニセフ募金贈呈 弘堂国際学園 (事務所)
- 3月26日 (土) ユニセフ募金贈呈 北部児童センター (佐賀市大和町)
- 4月1日 (金) ユニセフ出前授業 コープさが生活協同組合「ユニセフ学習会」
(コープさが生協第一支所)
- 4月11日 (月) イオン「イエローレシート贈呈式」
- 5月11日 (水) / 6月11日 (土) 「イエローレシートキャンペーン」参加
(イオン佐賀大和店)
- 5月13日 (金) / 5月26日 (木) 子連れ限定「ユニセフサロン」 (事務所)
- 5月15日 (日) 募金活動 「青年の日」チャリティーフェスティバル会場
(唐津市虹の松原広場)
- 5月24日 (火) / 6月21日 (火) ユニセフボランティア講座 I・II (佐賀市立図書館)
- 6月1日 (水) / 8日 (水) } ユニセフ出前授業 神埼市ドリームパーク
- 6月15日 (水) / 22日 (水) } 「水から世界をかんがえよう」 (千代田東部小学校 神埼小学校)
- 6月21日 (火) ユニセフ募金贈呈
コープさが生活協同組合第26回通常総代会にて
(アバンセ)
- 6月24日 (金) ユニセフ募金贈呈
コープさが生活協同組合 (佐賀新聞社)
- 6月29日 (水) ユニセフ出前授業 長崎県長崎市立小江原中学校3年
総合的学習の時間「平和な社会を築くために」





活動詳細



ユニセフ語り場 3.11から5年 ～被災地へ心つないで～

3月13日（日） アバンセ（佐賀市）にて
佐賀県ユニセフ協会では被災地の皆様の「忘れないで…」の思いを新たに
するために毎年3月11日前後に震災関連のイベントを行っています。

I 「願いをとどけよう」小城市立芦刈観瀾校 ボランティア委員会のみなさん

■ちょうど1年前のユニセフイベントに参加。
そのとき、3月11日の前後のみに報道されるのは寂しいと一年を通じて自分たちに
できる支援をしようと取り組みました。



- ①校内で募金活動。
- ②気仙沼復興屋台村の七夕まつりにおくるため、全校に呼びかけて短冊づくり。
- ③奇跡の一本松の絵のモザイクアートを全校で製作し岩手県大船渡市立第一中学校へおくる。

※通年で活動し、しかも全校児童生徒を巻き込んでの取り組みに参加者から大きな拍手が送られました。

II 「東日本大震災の被災地を訪れて」 佐賀県立鳥栖商業高等学校インターアクト部のみなさん



■2015年8月6日から9日にかけて宮城県南三陸町、女川町、石巻市を訪問し、
自分の身長より高い津波到達点や仮設住宅を見て驚き復興商店街などを見
学して、学校に帰ってからの支援活動を報告しました。

- ①テレビなどの報道で目にするのと実際に行くのは、色や匂いなど、全然
違ったとのこと。もっと暗く落ち込んでいるのかと思ったが、明るく生
活していた。中には人生で3回も津波被害に遭った女性とも出会い、当
たり前の生活に感謝するようになった。

- ②佐賀に戻ってきた後も宮城県の水産高校生が商品化したものを販売したり、仮設住宅に住んでいる人々が作る布
草履の材料となるTシャツを集めたりした。

※被災地の高校や仮設住宅、作業所の方々との交流をしながら、自分たちにできる支援を継続した高校生の行動力
に参加者は惜しめない拍手を送りました。

III 「被災三県似顔絵ボランティアの旅 ～オートバイで走った4590キロ～」九州漫画の会 会長 井上信宏さん

■オートバイで東日本まで行き、共生地域創造財団の協力を得ながら福島県、宮
城県、岩手県を巡り被災地を視察し、福島県では放射線被爆の関係で二輪車の
通行が禁止されている地域もあり、自動車で移動する必要があったことなどを
話していただきました。



- ①訪問先で出会った人達の似顔絵を描いて贈り、たくさん笑顔に出会えた。
- ②7mの津波被害があったのに土地のかさ上げは4mまでで不安を感じたこと。
- ③高い防波堤が張り巡らされ、美しい海が見えなくなって圧迫感があったこと。
- ④被害が大きかった地域は、必ずしも海に近い場所ではなく、海から遠かったから
油断して逃げ遅れたり、パニック状態で自家用車で逃げる人が殺到して大渋滞になり身動きがとれなくなったり
したこと。
- ⑤福島は特に強烈で、家などはあるのに住人が一人もいない、ひたすら除染作業のみ。たった一度の重大事故で自然
やふるさとを失うのは寂しい。震災のストレスは物理的な被害よりも目に見えにくい難しい課題だ。
また、東日本に向かう道中、除染土の受け入れを要請されている地域も訪れ、東日本以外でも困っている人に出
会った。

※報道は復興できていることだけに偏っている印象。復興はまだまだ時間がかかると感じた事などを話していただ
き、会場の皆さんはまるで井上さんと一緒に被災地を巡っているような気持ちで聞いていました。

★ この一ヵ月後に、九州で震度7の大地震が2度も発生するとは!!!
「熊本地震」で被災されたすべての皆様・関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。



ユニセフって なあに？



ユニセフの活動

ユニセフは世界の子どもたちが生存し健やかに成長できるよう、他の政府機関や各国政府、NGOなどと協力しながら活動を行っています。

今回は「ユニセフ外国コイン募金」についてご紹介します。

眠れる外国コインで世界の子どもたちを ご支援ください！



○日本ユニセフ協会
宮城県ユニセフ協会ボランティアによる
コインの仕分け

海外旅行や出張で持ち帰った外国コインや紙幣。一部の紙幣を除けば、日本では両替することができません。

「コインを有効に利用することはできないでしょうか？」というアイデアから「ユニセフ外国コイン募金」は1992年8月1日にスタートしました。

国内で机やタンスの中などに眠っていると思われるコインを全国から集めて、仕分けをし、当該国へ空輸するために、6社（毎日新聞社、日本航空、三井住友銀行、JTB、日本通運、日本ユニセフ協会）で「ユニセフ外国コイン募金実行委員会」をつくり、それぞれ得意とする分野で役割を担ってくださっています。

2014年度末で「ユニセフ外国コイン募金」は、既に外国貨幣の累計金額で約9.2億円を超える実績をあげ、その累計重量は約181トンに達します。

外国コイン・紙幣のながれ（概要）



○ UNICEF/UNI115244/Asselin
給水タンクの横で座る女の子。
(コンゴ民主共和国)

募金協力 呼びかけ

毎日新聞
JTBグループ
日本ユニセフ協会
など

外国コイン・ 紙幣の受付

毎日新聞 日本航空
JTBグループ
三井住友銀行
日本ユニセフ協会

集約/ 国内輸送



日本通運

国別仕分け



三井住友銀行
日本ユニセフ協会

海外輸送



日本航空

主要各国の銀行

↓
ユニセフ本部



開発途上国の 子ども支援



© UNICEF DRC/2016/Jones

〔ご注意〕

* 現在流通しているコイン・紙幣のみ受け付けています。

* 送っていただいた外国コインの個別集計や日本円に換算した領収書の発行はできません。予めご了承ください。

* お問い合わせは佐賀県ユニセフ協会まで TEL 0952-28-2077 E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp

【資料提供：日本ユニセフ協会】



ご支援 ありがとうございます

トヨタ紡織九州(株)レッドトルネード様 太陽塗装様 上峰小学校様 大溝小学校様
ユープさが生活協同組合様 JA佐賀県女性組織協議会様 母子草様 弘堂国際学園様
北部児童センター様 武内小学校様 田口電機工業株式会社様 国際ソロプチミスト佐賀西部様

佐賀県くらし環境本部男女参画県民協働課様 佐賀リハビリテーション病院様 さかい薬局様
佐賀県立ろう学校様 基里小学校様 諸富北小学校様 道海島小学校様 本庄公民館様
佐賀県高等学校家庭クラブ連盟様 さが市民活動プラザ様 JA佐賀中央会様 佐賀新聞社様
ヘルスランチあららぎ様 九州電力佐賀支社様 グランドはがくれ様 佐賀玉屋様 浜玉中学校様
佐賀県商工会女性部連合会様 鳥栖市民活動センター様 富安造園様 アイカワ様 シマブン様
循誘公民館様 ミルクス様 田中電子工業様 武井電機工業様 副島病院様 九州木材工業様
大塚製薬佐賀工場様 佐賀大学文化教育学部附属中学校様 佐賀県地域婦人連絡協議会様
日本乾溜工業様 佐賀県国際交流プラザ様 鹿島ガタリンピック実行委員会様

(2016年2月3日～2016年6月28日)

☆ いろいろな形でのご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。
個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、
この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきます。



これからの予定

- 7月13日 (水) 20日 (水) 出前授業 神崎市ドリームパーク (神埼小学校)
- 7月28日 (木) ピースアクション2016にて パネル・地雷レプリカ展 (アバンセ)
- 8月4日 (木) ～7日 (日) 佐賀市平和展にて パネル展「危機のなかの子どもたち」 (佐賀市立図書館)
- 9月9日 (金) ～15日 (木) 「もったいないばあさんのワールドレポート展」 パネル展
- 9月11日 (日) 「もったいないばあさん」の真珠まりこさんがくるよ!!
 - ①「絵本の読み聞かせ&うたあそび」
 - ②「もったいないばあさんと世界の子どもたち」

*詳しくは同封のチラシをごらんください。
たくさんの皆様のご来場をお待ちいたしております。
- 9月14日 (水) 21日 (水) 出前授業 神崎市ドリームパーク (脊振小学校)
- 10月9日 (日) 2016さが国際フェスタ「カレーのおまつり カレーから世界を知ろう」&講演会
*詳しくは、次号のチラシで

(会場
佐賀市立図書館)

賛助会員募集中！ 日本ユニセフ協会賛助会員としてご協力ください。

(公益財団法人日本ユニセフ協会の賛助会費は、ユニセフ募金や寄付金と同様、寄付金控除の対象になります。)

日本ユニセフ協会賛助会員とは

日本国内での募金活動、広報およびアドボカシー（政策提言）活動を担う日本ユニセフ協会を、賛助会費によって支援していただく協力方法です。賛助会員になってニュースレターや資料を入手して理解を深め、世界の子どもたちの状況やユニセフと日本ユニセフ協会の活動を知り、できる範囲で行動する機会にさせていただくことができます。

賛助会員の種類と期間

1. 一般賛助会員 1口 5,000円…個人の方が対象
 2. 学生賛助会員 1口 2,000円…学生の方が対象
 3. 団体賛助会員 1口100,000円…企業、団体、有志のグループなどが対象 期間は、1年ごとの更新。
- ❖詳細については、佐賀県ユニセフ協会までお問い合わせください。



の仲間たち!

ドリームパーク コーディネーターの皆さん

＝神崎市＝



神崎市の放課後子ども教室のことを、ドリームパークといいます。神崎市内の小学校などで、放課後に地域のボランティアにより「作る」「遊ぶ」「学ぶ」を幹にして、料理や工作、むかし遊びやスポーツなどいろいろな活動を行っています。

地域をはじめ、大人たちとのつながりが希薄になることが懸念される今、子どもたちに安心・安全な居場所を作ることを目的とした事業です。

この活動が子どもの居場所づくりはもちろん、地域の高齢者の居場所づくりにもなり、講師の生きがいのある場ともなっていると私たちも感じています。そして、その活動の中でユニセフと出逢いました。佐賀県ユニセフ協会に講師をお願いしたのは、ドリームパークが立ち上がってから2年目を数える2008年でした。

私たち自身も『ユニセフ』と聞いても、募金活動をしていること、子どもの教科書やノートに書いてある青字のロゴを思い出すくらい…。

実際、現地で汚れた水しか飲めない子どもたちのいる地域に井戸をつくっていることや地雷におびえる子どもたちがいることを、子どもたちと一緒に学びました。

私たちの仕事は、ドリームパークのメニューを考え、講師を探すことから始まります。

『ちょっと頑張ればできる』という体験は子どもたちにとってとても大切だと思っています。そして、本物に触れることはかけがえのない経験になります。

先日の話ですが、地域の料亭から講師をお呼びし、だし巻き卵の実演をしました。匠の技を見た子どもたちの目の奥に地域の店を、地域の大人を尊敬するまなざしがありました。日本舞踊の授業の際は大変だとは思いましたが、児童全員が浴衣を着ました。教えてもないのに背筋が伸び、講師にむける目が輝くこと…。子どもは素直ですよ。

子どもたちの心にどの活動が残るのかはわかりません。ユニセフの授業の後、これは時間が経ってから分かったのですが、使用済み切手をせっせと集めている子どもがいました。この子はこれからもずっとしていくのだと思いますし、その子から活動がまた広がると信じています。

無限の可能性を持っている子どもたち。彼らがどういう子どもに育ててほしいのか、を考える前に、まずは私たち大人の心を耕すことが大切なのでしょうね。子どもたちと一緒に豊かな学びをしていかなければいけないと日々感じています。



使用済み切手の整理をする子どもたち

(語り：ドリームパークコーディネーター、取材：高原陽子)